

季刊

医大

おらんくの大学病院

[高知大学医学部附属病院]

[Vol.6]

2020年  6月30日
発行

特集 Long Interview

「災害拠点病院」としての、 高知大学のあり方とは!?

—コロナパンデミックも、災害のひとつと捉えて—

「災害・救急医療学講座」の意義や指針、
また、災害時における大学病院の役割などについて聞いた。

Topics

消化器内科 教授 内田 一茂

●おらんくの食事 栄養管理部から「夏」のおすすめ料理

●医大のスタッフ 周産母子センター

夏のイベント案内

「災害拠点病院」としての、高知大学のあり方とは!?

コロナパンデミックも
災害のひとつと捉えて

人はあらゆる状況下で、ピンチを回避するさまざまな「道具」や「頭脳」を発明してきた。が、自然災害だけは現代の科学の粋を結集させても、いつ、どこで、どの規模で起こるかを特定するのは難しい。高知県は南海トラフ地震のほぼ中心エリアにあたることから、県民の災害対策への関心はより高まっている。今回は、高知大学医学部に設立された「災害・救急医療学講座」の意義や指針、また、災害時における大学病院の役割などについて聞いた。



“災害・救急医療学”の教授として、昨年8月から本学1期生の西山謹吾先生が赴任されましたが、そもそも災害・救急医療学講座とはどういったものなのでしょうか。



災害・救急医療学講座 教授
西山 謹吾
(にしやま きんご)

西山/高知県では、南海トラフ地震対策に熱心に取り組んでいます。たとえば我々医師は病院内での治療には慣れていても災害時の消防、警察、保健所、県、国などの機関との連携に慣れていません。また、被災者の応急処置が求められる現場では、内科・外科の区別なく対応しなければならず、普段から救急医療であらゆる患者さんを診る経験を積んで行くことが大切です。災害・救急医療学講座では、その対応能力をしっかりと身につけてもらいます。

なるほど。本院での救急診療体制はどのようになっていますか。

西山/大学病院には各科のかかりつけの患者さんが多いので、その患者さんには主治医が対応しています。かかりつけ医がいらっしゃらない方は、救急部が対応しています。

さて、今年2月から本学8期生の宮内先生が加わりました。東京の日本医科大学で研鑽を積まれたと伺いましたが、東京と高知を比較した時、救急医療体制に差はありますか。久々の高知大学病院についても聞かせてください。

宮内/私が東京に出たのは現場の救急医療体制を学びたからです。救急医療体制に大きな地域差はありませんが、東京となると患者数も多く、日中ならば多くの病院が救急患者さんを受入れています。夜間や休日になるとそれも限られ、決まった病院ばかりに集中することになります。私の在学時の大学病院では、救急車のサイレンを聞いた記憶がほとんどなかったのですが、今は立派なヘリポートも完成し、県全体の救急要請を充たせていることを実感しています。



災害・救急医療学講座 准教授
宮内 雅人
(みやうち まさと)

宮内/高知市にお住いの患者さんは高知市内の病院が近いのですが、高知県東部からは本院が近い病院になります。そこで県立あき総合病院と連携して患者さんを受け入れ、また、西部の県立幡多けんみん病院からはドクターヘリを使うと20分で患者さんを受け入れることができます。地域医療としてしっかり連携が取れていると思いますね。

次に研修医の江田先生から、本学で研修を希望された理由を教えてください。

江田/こちらの出身です。小さい子どもがいますので、環境を変えずに救急部で研修したかったです。救急車の初期対応から始まり、画像から対応の仕方を考えたり、それ以外は先生方にレクチャーしていただいています。

濱田先生はいかがですか。

濱田/経験豊富な西山先生、宮内先生にご指導いただけるのは本学の強みでもありませんし、救急医療における本院の役割を知る上で即決しました。他院ではこのような立場の先生方から直接的な指導は難しく、これは絶好のチャンスだと(笑)。貴重な画像などもたくさん見ることができ、大満足です。



医療人育成支援センター 研修医
江田 仁海
(えだ ひとみ)

医療人育成支援センター 研修医
濱田 凌
(はまだ りょう)

本学では診療、災害の双方から体制を整備していかねばなりません。高知大学の果たす役割を教えてください。

西山/差し迫ったところだと、南海トラフ地震への対応を教えなければなりません。キーワードとなるのは「総力戦」と「前方展開」です。総力戦とは、総ての医療者と一般県民が協力し合い災害による傷病者への応急処置、応急手当ができるまで持っているというものです。

次に前方展開。南海トラフ地震では浸水に加えて、道路も寸断されるため、重症患者さんを後方の高度な病院へ搬送することが難しいことが考えられます。その場合、その方たちの治療を前方、つまりその施設

で展開していくことが前方展開です。

また、本院が災害拠点病院であるという意味は、災害の際に日本各地から集まってくる医療班などの参集拠点であること、また被災した患者さんのうち高知県内で対応できない方をヘリコプターなどで県外に搬送するための拠点であるという意味でもあります。そのため、災害時には多くの人と物資が集中することになります。

本学には先端医療学コースというのがあり2年、3年、4年の3年間で1つの研究に取り組みますが、嬉しいことに今年の2年生は10名が災害・救急医療学を選んでくれました。現在、コロナ禍の中でオンライン授業を実施していますが、医学がまだ十分わからなくても避難所運営や感染症予防の方法、さらに災害関連死を抑える方法などは学べますから。

宮内/東京では首都直下地震が喫緊の課題で、私も多くの災害研修に参加しました。大地震の時は、支援する立場から災害医療に対して何が必要かをしっかりと学ぶことができました。現場をはじめ部署間での協力はもちろん、日頃から他科との連携を強め外部機関とも良好な関係を作っておかなければなりません。

「災害医療」について
研修医の先生方のご意見も
お聞かせください。

江田/この研修中に災害関連施設も研修でき、24時間体制で備えていることを知りました。入院患者さんの命をつなぐためには、それだけ大きな電力が必要となるわけで、本院には災害対応に十分な自家発電

装置があると聞き、安心しました。

濱田/昨秋に、研修医が模擬患者となって災害訓練が行われましたが、訓練を繰り返す必要性や連携の大切さ、自分はどの役割が必要かを熟知しておく必要性を強く感じました。

現在のコロナ禍の中で
南海トラフ地震が発生した場合、
本院や県民の動き方を
教えてください。

西山/コロナにかかっているかどうかを調べるPCR検査は結果が出るまで半日かかります。疑いのある方とそうでない方が分かれて過ごすためには、避難所はたくさんあるに越したことはありません。今の状況、コロナ自体を一つの災害ととらえるべきですね。現在は、高知医療センターが新型コロナウイルス感染症指定医療機関ですが、実際に災害時には患者さんをどのように搬送するかが課題になると思います。

宮内/地震による津波で医療センターへのアクセスが途絶された場合など、災害時のシナリオもコロナの状況を踏まえたさまざまなケースを考えて臨機応変にリメイクしていかなければなりません。必要に応じて生活様式を変えるように、本院もこれまでの対応法やシステムを見直さざるを得ないところにきています。

大学病院として、県民の皆さんの救急的心配を最大限にサポートできる体制づくりを整えておきたいですね。

西山/災害における自助、共助、公助の中でもっとも大切なのは「避難する」などの「自助」なのです。自分の生命を助けたら、家族や近所を救う「共助」、そして救急車などによる「公助」があります。コロナも同様で、自分が感染しないための努力をしてこそ、人を救うことが可能になるということを忘れてください。

(取材/R2.6.1)

西山 謹吾 プロフィール

- 【学歴】昭和59年 高知医科大学 卒業
昭和63年 高知医科大学大学院 修了
- 【経歴】昭和59年 高知医科大学麻酔科 入局
(大学院修了後)
平成元年 近森病院麻酔科 勤務
平成2年 高知医科大学 麻酔科蘇生科 助手
平成4年 高知医科大学 救急部 講師
平成6年 高知赤十字病院 救命救急センター 救急部 副部長
平成8年 高知赤十字病院 救命救急センター 救急部 部長
平成19年 高知赤十字病院 救命救急センター 救急センター長(兼)救急部 部長
平成28年 高知赤十字病院 副院長(兼)救命救急センター長(兼)救急部 部長
令和元年 高知大学医学部 災害・救急医療学 教授
- 【学会資格】日本救急医学会専門医・評議員/日本麻酔科学会専門医
社会医学系指導医および専門医/日本集中治療医学会専門医
- 【その他の活動】JATEC・JPTECインストラクター・ICLSディレクター/
統括DMAT災害医療救護通信エキスパート育成協議会(DCOME)幹事会副幹事長
- 【高知県関係】高知県災害医療コーディネーター/高知県災害医療対策本部会議参与員
高知県DMAT協議会会長/高知県腎臓病協会理事
高知県救急医療協議会委員/高知県DMAT専門部会会長
高知県救急医療体制専門部会委員
高知県心臓血管疾患医療体制検討会議委員
高知県周産期災害医療ワーキンググループアドバイザー
高知県医療支援チームの派遣等に関するWG委員 等
- 【賞】平成27年 救急医療功労者 厚生労働大臣表彰 受賞
平成28年 臓器移植対策推進功労者 厚生労働大臣感謝状 受賞

宮内 雅人 プロフィール

- 【学歴】平成3年 高知医科大学 卒業
平成10年 日本医科大学大学院 博士課程 医学研究科 修了
医学博士
- 【経歴】平成3年 日本医科大学 救急医療学教室・研修医
平成6年 日本医科大学高度救命救急センター 助手
平成9年 山梨県立中央病院救命救急センター 助手
平成10年 日本医科大学 高度救命救急センター 助手
平成13年 国立国際医療センター救急部 臨床研修指導医・技官
平成15年 国連人道問題調整事務所研修・於 スウェーデン国
平成17年 日本医科大学 高度救命救急センター 助教
平成20年 日本医科大学 高度救命救急センター 病院講師
平成20年 日本医科大学 高度救命救急センター 医局長
平成23年 日本医科大学大学院 医学研究科
外科系救急医学分野 講師
平成26年 日本医科大学 救急・総合診療センター
救急診療科 部長
令和2年 高知大学医学部 災害・救急医療学講座 准教授
- 【資格等】日本救急医学会指導医専門医/日本集中治療専門医・評議員
日本外傷学会専門医・評議員/日本中毒学会専門医・評議員・理事
日本熱傷学会専門医/日本DMAT・東京DMATインストラクター
JATECインストラクター



消化器内科

教授 内田 一茂

大学病院として消化器の難病にさらに臨んでいくと同時に、
県内の医療機関と連携し、みなさんに愛される診療科を目指します。



消 化器内科は、食道から胃、小腸、大腸、そして肝臓、膵臓、胆嚢と幅広い臓器を対象としています。そのため検査も、胃カメラ、大腸内視鏡と言った内視鏡検査、腹部エコー、CT、MRIなどの画像検査と多数あります。

大学病院として臓器ごとの専門医が個々の患者さんにあった先進医療を提供できるよう、外来は胃腸内科と肝・胆膵内科に別れていますが、私たちそして様々なメディカルスタッフと共にチーム医療に取り組んでいます。

消化器内科の診療は時代とともに大きく変わりました。消化管では、まず胃がんの原因であるヘリコバクターピロリ菌の除菌が、保険診療で認められました。そして胃がん、大腸がんの内視鏡治療も内視鏡的粘膜剥離術(ESD) [図1]という手技が開発され、今までは取りきれなかったがんを内視鏡で治療できるようになりました。また潰瘍性大腸炎には、抗TNF- α 抗体による治療が行われてから、現在では様々な治療薬が選択できるようになりました。

一方、肝臓についてみると、C型肝炎は直接作用抗ウイルス薬(DAA)という飲み薬で治療できる時代となりました。そして肝臓がんの治療について

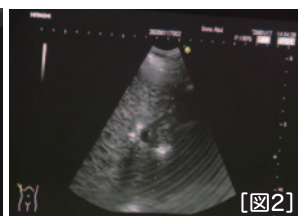
は、経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA) [図2]というエコーで肝臓がんを見ながら針を刺して、がんを焼いて殺す治療法など治療法は進歩しています。

しかし膵臓がんは、2cm以下特に1cm以下の膵臓がんの治療成績は他のがんと比べても遜色ありませんが、なかなか1cm以下の膵臓がんで見つかることは難しく、新しく使える抗がん剤が増えているとはいえ成績は他のがんに比べるとまだまだ満足いくものではありません。これからは、この膵臓がんの早期発見に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

私たち消化器内科は、大学病院として消化器の難病にさらに臨んでいくと同時に、地域の中核病院として県内の医療機関と連携しみなさんに愛される診療科を目指していきたいと考えています。



[図1]



[図2]

2020/2/2放送「おらんくの大学病院」より(画像提供テレビ高知)





涼しくてヘルシーなお料理で食欲アップ!

涼風長芋そうめん & 夏野菜の彩りゼリー寄せ



家庭でも料亭のような盛付けで...

涼風長芋そうめん

【材 料】(1人分)

長芋……50g きゅうり……10g 人参……5g
 (A) 昆布メ用材料 (B) たれ
 昆布(乾)……2本 めんつゆ(3倍濃縮)……3g
 酒……適量 水……6g

【トッピング】

イクラ……5g みょうが……適量 わさび……適量

【作り方】

- ① 昆布を酒に30分程度浸し、ふやかしておく。
- ② 長芋、きゅうり、人参は千切りにする。
- ③ みょうがは千切りにして水にさらす。
- ④ 昆布を1本広げて②の野菜を並べる。その上にもう一枚の昆布を重ねて(昆布メ)1日程度寝かす。
- ⑤ 昆布メにした野菜にBのたれを混ぜ合わせ、皿に盛付け、イクラ、お好みでみょうがやわさびをのせる。

〈ポイント〉

野菜を昆布メにして1日程度寝かすと美味しく仕上がります。

栄養量 (1人分)

エネルギー	53kcal
たんぱく質	3.0g
脂 質	1.0g
炭水化物	8.4g
食塩相当量	0.4g
食物繊維	0.8g
ビタミンB1	0.08mg
ビタミンB2	0.05mg

※A昆布メ用材料は栄養量に含みません

夏野菜の彩りゼリー寄せ

【材 料】(1人分)

野菜はお好みで煮付ける

かぼちゃ……10g オクラ……10g 人参……5g
 茄子……10g 揚げ油……3g

(A) 薬味 { 生姜……少々 (B) 薄口醤油……5g
 青しそ……少々 煮汁 { 砂糖……3g
 みょうが……少々 (ゼリー用) 出し汁(鰹節・昆布)……50g
 粉ゼラチン……1g

【作り方】

- ① かぼちゃ、オクラ、人参、茄子をさいの目に切る。(A)の薬味を千切りにしておく。
- ② かぼちゃ、人参を煮付け、火が通ったらオクラを入れて少し煮て、よく冷ます。
- ③ 茄子は素揚げし、②の煮汁につけ、よく冷ます。
- ④ ゼリー型にA薬味を入れてから②③の野菜を入れる。
- ⑤ Bの煮汁を沸騰させ、粉ゼラチンを振り入れ、よく溶かす。④に流し入れ、粗熱がとれたら冷蔵庫でよく冷やす。
- ⑥ ゼリーが固まったら、型から出して盛付ける。

※お好きな薬味をお使いください。
 ※ゼリー型がないときはご家庭の小鉢などの食器で代用することもできます。

栄養量 (1人分)

エネルギー	59kcal
たんぱく質	1.8g
脂 質	3.1g
炭水化物	6.2g
食塩相当量	0.9g
食物繊維	1.2g
ビタミンB1	0.03mg
ビタミンB2	0.03mg

※煮付け用の煮汁は栄養量に含みません

私達が担当しました!

左)調理師/野田 高史
 右)管理栄養士/石川 佐恵



中央診療施設
Central Clinical Facilities

周産母子センター

Perinatal Intensive Care Center

センター長
前田 長正
まえだ ながまさ



周産母子センターは、切迫早産、妊娠高血圧症、多胎妊娠や各種基礎疾患を持つ合併症妊娠などの管理を行う産婦人科や小児外科、眼科、耳鼻科など各診療科と連携を取りながら、早産・低出生体重児をはじめとした様々な問題を抱えて生れてきた赤ちゃんのケアを行っています。また、他院で出生した状態の悪い赤ちゃんの受け入れも行っていきます。

人工呼吸管理などを必要とする重症児の全身管理を行う新生児集中治療室 (NICU) 9床と、集中治療を脱することのできた赤ちゃんや比較的状态の安定した赤ちゃんの管理を行う後方病床 (GCU) 12床で構成されています。地域周産期母子医療センターとして認可を受け、専属の小児科医 (新生児専門医2名を含む) と看護師 (新生児集中ケア認定看護師 2名を含む) が24時間体制で診療に当たっています。

特に出生体重が1,500g未満の極低出生体重児や1,000g未満の超低出生体重児の呼吸、循環管理や合併症の治療に力を入れており、後遺症無き生存を目指

しています。発達のハイリスク児に対しては、リハビリテーション部の協力を得て、保育器にいる時から発達促進のための理学療法も行っていきます。また、当院は産婦人科、小児科、精神科の入院病床を持つ高知県内唯一の病院であり、精神疾患を持つお母さんの妊娠・分娩、その後の赤ちゃんの管理にも力を入れています。専属の臨床心理士も配属されており、直接医療に関わらない立場から、様々な不安を抱えたご両親の相談役として精神的サポートも行っていきます。

周産母子センターは、「出産」や「退院」がゴールではないと考えています。産科や小児科をはじめとした各診療科、医療ソーシャルワーカー、地域の行政機関など様々な職種、機関の方々と協力して、生れる前から退院した後まで、より良い育児環境が構築できるよう取り組んでいます。そして、当院で生れた赤ちゃんが、家族揃って幸せに過ごせることを最終の目標として日々診療を行っています。



夏のイベント案内

7月~8月

RKCラジオ 「気になる健康ファミリドクター」

【放送】
毎週月曜日 午前10:35ぐらい~(8分間)

【再放送】
毎週土曜日 午後5:50~(8分間)

※放送内容は後日附属病院ホームページに掲載されます。



- 7月6日(月) 肝臓のがんについて [外科一/宗景 匡哉]
- 7月13日(月) 大腸がんと肝転移 [外科一/前田 広道]
- 7月20日(月) 歩いたら胸が苦しいです [老年病・循環器内科/宮本 雄也]
- 7月27日(月) 動悸がします [老年病・循環器内科/杉浦 健太]
- 8月3日(月) 子どもの胸痛 [小児科/山本 雅樹]
- 8月10日(月) 子どものいびきや無呼吸 [耳鼻咽喉科・頭頸部外科/小森 正博]
- 8月17日(月) 未定 [心臓血管外科/三浦 友二郎]
- 8月24日(月) ヘルピロクター・ピロリ感染症と血液疾患 [血液内科/砥谷 和人]
- 8月31日(月) 超超高齢社会を健康に生き抜くために。肺の専門医からの提言 [呼吸器外科/穴山 貴嗣]

テレビ高知 明日への備え -新型コロナウイルス-

【放送】
毎週日曜日 午後4:54~5:00



- 7月5日(日) 第3話 藤本 新平 パンデミックにおける糖尿病療養
- 7月12日(日) 第4話 寺田 典生 慢性腎臓病と透析患者さんの新型コロナウイルス対策
- 7月19日(日) 第5話 福田 仁 パンデミック下の脳卒中診療の重要性
- 7月26日(日) 第6話 北岡 裕章 新型コロナウイルス時代の循環器疾患との付き合い方
- 8月2日(日) 第7話 中山 智孝 子どもと新型コロナウイルス感染症
- 8月9日(日) 第8話 西山 謹吾 高知県における本院の対応

[Vol.6]

2020年夏 6月30日 発行

おらんの大学病院
[高知大学医学部附属病院]

ご意見、ご感想は
右記まで
お寄せください。

高知大学医学部附属病院 広報係
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
Tel.088-880-2723
http://www.kochi-ms.ac.jp